



有形文化財（工芸品）

40. 三杯焼竹根形花生くち 1口

さんばいやきちくこんがたはないけ

■指定年月日 昭和46年12月10日(1971)

■寸法 口径9.5cm 高16.2cm 底径12.0cm

■所在地 宝立町春日野

■所有者 個人

三杯焼は、南方村（現在の戸町）の豪農三杯助兵衛が、弟の九郎左衛門の生業として、窯業を始めたものである。操業時期は、正院焼よりやや遅れて、天保（1830-1844）ころから明治初年ころまでといわれているが、はっきりしない。その窯跡は、谷崎地内にあり、製品は、大・中・小皿、豆皿、鉢、灯芯皿、口紅皿、蓋、蓋物、行平、片口、植木鉢、茶碗、湯のみ、猪口、急須、すり鉢、徳利、花生等と多岐に渡る。

この花生は、竹の根を模して造られ、全面にうす緑色のうわぐすりがかけてある。胴にあたる側面に「三杯」と「栢山」の、2つの押印がある。開窯当初、九谷の陶工から指導を受けたとされ、のち京都からも

陶工を招いたという。上戸町の善慶寺の過去帳に、「幸次郎、此者ハ三杯助兵衛之陶工八幡住人、於当地歿……」とある。作品は京焼や、石見焼（島根県）に似ているものが多いが、銘が入ったものは少ないため、判別が難しい。

この花生は三杯焼の印がある希少な作品で、近世末の奥能登の窯業の研究資料として貴重である。